

知事記者会見の概要

日 時：令和4年12月22日(木) 10:02～10:44

場 所：502会議室

出席記者：12名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から2件の発表があった。

その後、代表・フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) さくらんぼ「やまがた紅王」の最上級規格の名称について
- (2) やまがた雪未来国スポのシンボルマークについて

代表質問

- (1) 令和4年を振り返っての知事の所感について

フリー質問

- (1) 知事の今年の漢字について
- (2) 今後の大雪に係る県民への注意喚起について
- (3) 障がい者施設における不妊処置要求等について
- (4) 学校法人清風学園の動きに係る県の所感・対応等について
- (5) 新型コロナウイルス感染症への対応について
- (6) 知事の来年の展望について

< 幹事社：読売・日経・YTS >

☆報告事項

知事

皆さん、おはようございます。今年も残すところあとわずかとなりました。

はじめに、鳥インフルエンザへの対応について申し上げます。

12月8日に本県初となる高病原性鳥インフルエンザの発生が確認されましたが、延べ1,400名の皆様にご協力をいただきながら、防疫措置を12日に完了したところでございます。

寒空の下でご協力いただきました市町や関係機関の皆様に、改めて御礼を申し上げます。

内訳ですけれども、県職員が981名、市町が175名、JAが38名、建設業が163名、畜産関係39名、合計1,396名の皆様にご協力いただいたところであります。誠にありがとうございました。

次に、先日の大雪について申し上げます。

県内では、強い冬型の気圧配置と寒波の影響により、12月15日から大雪となりました。その後も断続的に雪が降り続き、鶴岡市榎引では平年の約7.3倍、庄内町狩川では平年の約6.5倍、小国町では平年の約4.6倍など、県内14の観測地点のすべてで、この時期の平年値を上回る積雪となりました。

除雪作業中の事故も発生しており、12月21日18時時点で、1名の死者と13名の負傷者が確認されております。

お亡くなりになった方に、心からお悔やみを申し上げますとともに、怪我をされた方の1日も早い御回復をお祈り申し上げます。

今回の大雪では、樹木の接触や倒木などにより、県内各地で停電が発生し、昨日21日17時現在で、延べ約19,900戸にのぼりました。多くの地域が昨日までに復旧しておりますが、一部の地域では、停電が続いている状況であります。一刻も早い復旧を願っております。

県では、19日に、大雪に係る関係課長等対策会議を開催し、情報の共有と雪害事故の防止に向けた取組みについて確認を行ったところです。

また、豪雪対策本部を設置した小国町に対して、連絡調整員（リエゾン）を2名派遣するとともに、広範囲で停電が発生し、住民の方に配布するペットボトルの飲料水が不足しているとの連絡があったことを受けまして、昨日及び本日、置賜総合支庁で備蓄しているペットボトルの飲料水、2リットルのペットボトル6本入りの箱なんですけれども、これをあわせて250箱を提供したところであります。

さらに、県では、積雪や最高気温などの気象データに基づき、屋根の雪が滑りやすい状態になったことを県民の皆様にお知らせする「雪下ろし・落雪事故防止注意喚起情報」を公表しております。現在も、12月16日から最上・北村山地域、そして12月18日から庄内地域、19日からは置賜地域に発表中でございます。

また、気象庁では、全県になだれ注意報を発令しておりますので、県民の皆様には、くれぐれもご注意いただければと思っております。

昨日、今日と気温が上昇しておりますが、今夜からは、日本付近は強い寒気に覆われ、再び大雪が予想されております。

県では、本日午後、関係課長による「対策会議」を開催し、情報の共有や今後の対応についての確認を行うこととしております。

県民の皆様には、除雪の際の事故や交通障害などに十分気を付けていただきたいと思います。

次に、新型コロナについて申し上げます。

全国の新規感染者数は、増加傾向にあり、特に、これまで比較的感染者が少なかった中国地方や九州地方で感染が急拡大しております。病床使用率も、全国的に上昇傾向にあり、北日本や関東では5割を上回っているところも多くなってきております。

本県では、今月1日に、直近1週間に人口10万人あたりの新規感染者数が千人を超えましたが、その後は緩やかな減少傾向となっております。昨日まで、7日間連続で前の週よりも減少しているところであります。

一方、21日現在、重症者はおりませんものの、病床使用率は5割近くの高い水準で推移し、確保病床以外の入院患者も高止まりしております。また、医療機関での院内感染や濃厚接触者の増加などにより、予定手術の取りやめや診療制限を行う病院もあるなど、一部の医療機関においては一般診療への影響も生じているところです。

また、発熱外来につきましては、検査や診察に訪れる方で混雑しているものの、直ちにひっ迫している状況ではないと聞いております。

次に、感染対策の要でありますワクチン接種であります。各市町村で、オミクロン株対応の2価ワクチンの接種の促進を図っております。県全体の2価ワクチンの接種率は約39%となりまして、全国第3位となっております。

また、県で、12月18日まで実施した巡回接種事業では、計11回実施しまして、約5,000名の方に接種していただきました。

県ではこれまでも、年内接種のお願いを私と県医師会長との連名で呼びかけております。年末年始を安心して過ごすため、接種を希望される皆様には、できるだけ早くワクチン接種をお願いいたします。

年末年始の期間は、多くの医療機関が休診となります。また、薬局等も休みの場合が多いため、発熱等の体調不良時に備えて、抗原検査キットや市販の解熱鎮痛薬を、あらかじめご準備いただきますようお願いいたします。

今年は例年になく大雪となっており、窓を閉め切って暖房を使う機会も多くなりますが、換気が不十分になりますと、エアロゾル感染のリスクが高まります。30分から1時間ごとに1回程度、意識してこまめに窓を開けるなど、これまで以上に室内の換気を徹底してくださいようお願いいたします。

また、年末年始は、帰省などで人と接触する機会も多くなります。県民の皆様には、引き

続き、場面や状況に応じた不織布マスクの正しい着用、ゼロ密、こまめな手洗いなど、基本的な感染防止対策の徹底をお願いいたします。

忘年会・新年会などを行う場合は、飲酒は節度を守り、箸やコップは使いまわさず、お酌はしないなど、感染防止対策を徹底していただきますようお願いいたします。

それから、年明け以降の「全国旅行支援～やまがた旅割キャンペーン～」の実施について申し上げます。

現在、12月27日までの期間、宿泊・日帰り旅行が割引になる「全国旅行支援～やまがた旅割キャンペーン～」を実施中でございます。年明け以降につきましても、引き続き全国を対象に、1月10日から3月31日まで実施してまいります。

冬の山形は、スキーや樹氷、温泉、雪祭りなど、冬ならではの魅力が盛りだくさんでございます。

引き続き基本的な感染防止対策を徹底し、また「新しい旅のエチケット」をお守りいただきながら、「やまがた旅割キャンペーン」を利用して、冬の山形をお楽しみいただきたいと思います。

☆発表事項

知事

ここで私から発表が2つございます。

1つ目は、「やまがた紅王」であります。

来年本格デビューするさくらんぼの大玉新品種「やまがた紅王」の最上級規格の名称が決定しましたので発表いたします。

「やまがた紅王」最上級規格の名称は「山形紅王プレミアム」であります（補足：知事が「山形紅王プレミアム」の名称を記したパネルを掲げる）。

今年6月23日にプレデビューした「やまがた紅王」は、来年に本格デビューを迎え、令和5年産は約20トンの出荷量を見込んでおります。この中でも特に優れた最上級品につきましては、既存品種との差別化や他産地の追随を許さない国産さくらんぼのフラッグシップとなる規格とし、「やまがた紅王」の早期のブランド化を目指すとともに、生産者の所得向上にもつなげてまいりたいと考えております。

「やまがた紅王」は、果実の大きさが2L以上、着色の割合等が50%以上という品質基準を設定し、販売することとしております。今回発表しました最上級規格「やまがた紅王プレミアム」は、その中でも、果実の大きさが4L以上、着色割合等が80%以上の最上級規格の果実となります。

今後は、来年の本格デビューに向けて、一粒でも多くの「やまがた紅王プレミアム」が生産できるよう、大玉高品質果実の生産に向けた取組みを実施してまいりますとともに、市場や果実専門店、消費者の皆様へのPRなどによる認知度向上に向けて、生産者をはじめ、農

協、県内市場関係者などと共に、オール山形の体制で、早期のブランド化に努めてまいりたいと考えております。

2点目はですね、雪未来国スポのシンボルマークについてです。

令和6年2月に本県で開催されます、第78回国民スポーツ大会冬季大会スキー競技会「やまがた雪未来国スポ」のシンボルマークが決定しました。全国に向け公募を行い、県内外から178点の応募がありました。多数のご応募をいただき、誠にありがとうございました。この中から選定を行いまして、山辺町にお住いの菅野薫（すがのかおる）さんの作品であるこちらのデザインに決定したところでございます（補足：知事がシンボルマークが描かれたパネルを掲げる）。

このシンボルマークは、山形県を印象付ける山を大きく配置し、流れるようなスピード感とシュプールや風をイメージした曲線で冬季大会らしさを表現し、中央に配した雪の結晶、これは選手たちの輝きやそこに集う人々の一体感を表しております。

それから、先に決定しておりますテーマ「やまがた雪未来国スポ」のスローガン「一瞬の風になり 叶えよ君の夢」、そしてこのシンボルマークを取り入れたポスターがこちらになります。（補足：担当職員がポスターを掲げる）華やかで近未来的なクリスタル調のデザインで表現をしていただきました。

これらを積極的に活用し、県民の皆様とともに大会開催を盛り上げてまいりますとともに、本大会を「山形の魅力を全国に発信する大会」として全国に広くPRしてまいります。私からは以上であります。

☆代表質問

記者

読売新聞の吉田です。本日、本年最後の定例記者会見であります。どうぞよろしくお願いいいたします。

本県は今年も新型コロナウイルスの感染拡大であるとか、あと物価高、それから8月の豪雨などですね、さまざまな驚異だとか県政課題がありました。一方で、米沢トンネル整備を巡るJR東日本との覚書締結といった前向きな話題もありました。この一年を振り返り、どのような年だったか吉村知事のご所感をお願いします。

知事

はい。それでは、申し上げます。

令和4年を振り返ってみますと、まず、新型コロナウイルスについては7月以降、感染の急拡大により自宅療養者数が急増し、医療提供体制のひっ迫が懸念される状況となりました。

こうした状況を踏まえ、本県では、発生届の対象者を高齢者などに限定することとし、医療の提供を重症化リスクがあつて、受診の必要性が高い方に重点化したところでありま

す。同時に、発生届の対象とならない自宅療養中の方が体調不安や症状が悪化した際の相談に対応するため、「陽性者健康フォローアップセンター」を設置しております。市町村と連携して自宅療養中の要配慮者や一人暮らしの方の見守り支援などに取り組んでいるところでもあります。あわせて、感染対策の要でありますワクチン接種の促進について、市町村と連携しながら引き続き力を入れてまいります。

また、コロナ禍や原材料・燃料費の高騰等が県民の生活や経済活動に大きな影響を与えておりますので、観光需要の回復に向けた「県民割」・「全国旅行支援」の実施や、中小企業・小規模事業者への支援として県独自の給付金の支給等に取り組んでまいりました。引き続き新型コロナの感染状況や原油価格・物価高騰等の状況を見極めながら、県内経済の回復に向けて、しっかりと取り組んでまいります。

そして、8月3日から4日にかけては、置賜地域を中心にこれまでに経験したことがないような大雨となりました。県内で初となる大雨特別警報が7つの市町に発表され、本県の風水害としては過去最大となる被害額となりました。道路・鉄道などのインフラをはじめ、県民生活に甚大な影響を及ぼしました。県としましては、国道121号の通行再開や飯豊町の「大巻橋」の仮橋供用開始など、復旧を着実に進めているところであります。被災市町とともに、政府や関係機関・団体と連携を図りながら、一日も早い復旧・復興に取り組んでまいります。

さらに、12月8日には、鶴岡市の養鶏場において、本県初となる高病原性鳥インフルエンザの発生が確認されました。今シーズンは、全国各地で鳥インフルエンザが猛威を振っておりますので、引き続き、今後の防疫対策に万全を期してまいります。

一方、こうした中にありましても、ポストコロナに向けて、本県にとって前向きな話題もございました。

5月には工場立地動向調査が公表され、製造業等の企業立地が2年連続で東北1位となったほか、10月には新規就農者動向調査において7年連続で東北1位となりました。さらには、日本総合研究所の幸福度ランキングにおいては7位となり、全都道府県で唯一、調査開始時から順位を上げ続けている県となったところであります。

また、県政における主な出来事としましては、今年の6月に本県のさくらんぼの将来を担う期待の大型新人「やまがた紅王」がプレデビューしました。消費者の皆様からは「食味が良好である」「食感が良い」との評価がある一方で、「県外で知ってもらおう取組みの強化が必要だ」といったお話もありました。先ほど冒頭で最上級規格「やまがた紅王プレミアム」を発表したところでありますので、本格デビューとなる来年は県民一丸となって「やまがた紅王」を山形の顔となる品種に育ててまいりたいと考えております。

また、8月10日から11日には、北海道東北地方では初となる第6回「山の日」全国大会が、蔵王を主会場に開催されました。延べ約4,000人の皆様から御参加いただき、本県の山の魅力をはじめ、山を守り続ける人々の活動やその意義、山や自然に対する子どもたちの思いなどを県内外にお伝えできたものと思っております。

高速交通網では、10月に東北中央自動車道の東根北IC～村山本飯田IC間が、そして11月には泉田道路が開通し、北村山地域、最上地域が首都圏と高規格道路ネットワークでつながりました。観光誘客の促進、交流人口の拡大、そして、産業振興に大いに寄与するものと期待しているところであります。

さらに、10月にJR東日本と「米沢トンネル整備計画の推進に関する覚書」、そして「鉄道沿線活性化等に関する包括連携協定」を締結いたしました。米沢トンネル（仮称）は、山形県の未来を拓く希望のトンネルです。本県経済の発展に直結するものであると思っています。地域の関係者やJR東日本をはじめ、県内外の関係者の皆様とともに、一丸となって沿線活性化に取り組みながら、一日も早いトンネル整備の実現を目指してまいりたいと考えております。

今年は、長引くコロナ禍に加え、原油価格・物価の高騰、豪雨災害などにより、県民生活や経済活動に大きな影響が生じた一年でありました。こうした様々な影響を踏まえつつ、新型コロナへの対応と社会経済活動の両立をしっかりと進めていく必要があります。

本県の持続的な発展に向けて、デジタルやグリーンなどの未来につながる変化を捉えながら、明日の山形を創る取組みには欠かせない人的投資にも力を入れて、県民の皆さんと一緒にポストコロナの山形県を創ってまいりたいと考えております。

以上、ごく一部ではあるんですけども、今年1年を振り返っての所感とさせていただきます。よろしくお願ひします。

☆フリー質問

記者

河北新報の原口と申します。今の今年の所感を踏まえてですね、今年一年を漢字一文字で例えると何になるかというのを、恒例で申し訳ないんですけど。

知事

はい。前にもそういうご質問もあったのかなと思って、昨日の夜考えて、今日の朝の9時半に県庁で書いてみました。これです（補足：知事の今年の漢字「変」の色紙を提示する）。私にとっての今年の漢字一文字というと、この「変化」の「変」「変わる」「変える」という一文字になろうかと思ひます。

なぜこれを選んだかということなんですけれども、そうですね、コロナに始まりコロナに終わるというような状況もありまして、その新型コロナウイルス感染症ですけれども、変異株がですね、どんどんと変化したということがあります。医療専門家の皆様のお話をお聞きしますと、日々ウイルスは変化しているんだということで、人間と共存できるようになるまでですね、どんどんと毎日変化しているんだというようなことをお聞きして、まさに変わり続けるんだなというふうに思ひました。

それからですね、これまで経験したことがないような大雨になったわけなんですけれども、

8月3日夜ですね、4日にかけて。あれもやっぱり地球規模の気候変動、気象変動と言うのでしょうか、やっぱりそれによるところが大きいのではないかというふうに思いました。あれだけの凄まじい自然界のエネルギーでですね、大巻橋のあの周囲の惨状といったこと、現場に行って、本当にもう実感をしたところでもあります。気象変動、気候変動、そういった変化もやはり起きて続けているなというふうに思います。

それからですね、今年だけではないのですけれども、このコロナになってから本当に大きく変化していると思うのは、デジタル化です。もう、コロナウイルスがですね、猛威を振るうようになって、変化を余儀なくされたと思います。デジタルオンラインでの会議でありましたり、商談会でありましたり、オンライン授業でありましたり、本当にこのコロナ前では考えられない、将来そういうふうになるかもしれないというようなことはありましたけれども、実際にもう変化をしております、今日の朝の打ち合わせもですね、もうオンラインであります。もう、一人ひとり画面に映って、市町村長会議などもですね、オンラインで開催したこともありますし、全国知事会も本当に毎月のように開催しておりますけど、オンライン会議であります。本当に変化が著しいなと思っています。このデジタル化というのでしょうか、社会の変化、そのことをしっかりと捉えて、産業・経済活動はもちろんでありますけれども、県民生活もですね、より幸せな生活に繋がるように、やはりこのデジタル化というものも、そういう視点を持って取り組んでいきたいものだなというふうに思っているところです。

そういった、諸々で自分自身もスキルアップ、リスクリングもしなくちゃいけないなどということ最近ちょっと考えたりもします。この「変化を続ける」、「変える」、「変わる」ということで挑戦し続けるということにも私は繋がると思っています。挑戦を続けることが山形を強くするというようなことも言われております。常に新しいものに向かってしっかりとチャレンジし続ける、そういう意味でもですね、この「変化」「変換点」というものをしっかりと捉えて、ポストコロナに向けて県政、益々全力で取り組んでいきたいというふうに思っているところでございます。

記者

NHKの桐山と申します。よろしく申し上げます。

気象庁のほうで、今晚、明日、明後日、山形県内でも大雪が見込まれているということで、詳しい対応は午後の対策会議で決められるとは思いますが、例えば新潟県では大雪による立ち往生、そしてその中でマフラーを塞いでしまったことによる一酸化炭素中毒なども起きています。山形でも例えば113号線であるとか、47号線であるとか、なかなか迂回路のない国道というの多いかと思えます。そういったところ、外出するとそういうリスクもどうしても出てしまうかとは思いますが、そうしたことも踏まえてですね、この明日・明後日の大雪に備えて何か県民に注意の呼びかけなどございますでしょうか。

知事

そうですね。明日から、今日の夜からとかね、また大雪になるというような予報が出されておりますので、本当に県民の皆さんにはくれぐれも事故のないようにしていただきたいと、注意していただきたいというふうに思っております。

それで今日の午後にですね、関係課長等による対策会議を行うということでもあります。

そこでやはり詳しいことをですね、協議・議論していただくということになりますけれども、これまでですね、例えば国道48号線で本当に80台の車が立ち往生したりというようなこともございましたし、また、鉄道がですね、運休なったりというような可能性も大いにあるかと思っています。いろんなことを考えて、やはり対処できるようにと言いますかね、やはりできる限りのその準備を、連携して、県や、それからそういう鉄道でありましたり、警察、消防、あらゆる機関が連携してですね、取り組んでいけるようにしておくというのが大事だなと思っています。

また、本当に県民の皆さんにはお一人おひとりがですね、除雪作業でありましたり、雪下ろしということでありましたり、大変ご苦労されると思いますけれども、くれぐれもその命が大事でありますので、お怪我のないように、命の安全ということについて、やはり複数の方で雪下ろしをしていただくとか、あるいは声掛けをして命綱ということも奨励しておりますので、本当に注意していただきたいと、今から心の準備をしていただきたいというふうに思っております。

記者

あと、想定以上の雪、新潟のようになってしまうと、外出そのものが危険を伴うような可能性もあるかと思うんですけど、そのあたりについて県民にはどのように呼び掛けますか。

知事

そうですね、やはりものすごい大雪ということになれば、防災部で県民の皆さんにアラートと言いますかね、警戒を呼び掛けるということになるかと思います。できるだけその必要のないと言いかね、そういう外出はお控えいただきたいというようなことも、状況によっては呼び掛けさせていただくこともあるかと思います。

記者

承知いたしました。ありがとうございます。

記者

共同通信の内藤です。よろしくお願ひします。

最近、全国的に福祉施設とか保育施設での不祥事が相次いでおります。北海道でも結婚を

希望する人に不妊処置を迫ると言いますか、事実上強制していたりして、国も問題視するコメントを出したりしておりますが、山形県内において現時点でそういった事案の確認や、今後調査する予定というのがありますでしょうか。

知事

はい。私も報道で知りまして、これはこういうことがあってはならないというふうに思いましたね、担当のほうに聞いてみました。

担当のほうでは福祉のですね、幹部の方と言いますか、役員の方にお聞きをしたところ、本県ではそういうところは承知をしていないというようなことだったと聞いております。

なお、またですね、調べるかどうかということについて厚労省のほうの指示と言いますか、そういったことを受けてしっかり取り組みたいというようなことを聞いているところであります。

記者

山形新聞の鈴木です。よろしくお願いします。

清風学園の問題についてお聞きします。先日、山形市と天童市が副理事長の不当な行為を認定して、行政処分と行政指導を行いました。県は学校の設置を認可する立場ということですが、県の立場からこうした行為が行われていたということが認定されたことについて、どのようにお考えかということをお聞きしたいのと、今後ですね、県も、法人への、運営への行政指導を続けてきましたが、今後どのように対応していくのか、この2点について教えてください。

知事

はい。認定こども園、保育所というのは、子どもの健やかな成長に欠かすことのできない重要な施設であります。県としましては、これまで清風学園という法人の運営費について監査権限を持っている山形市、天童市との間で、しっかりと情報共有をしながら、連絡・調整等、密接に連携するとともに、法人運営や会計処理などについて、必要な調査や照会を行ってきたところであります。

両市において、子ども・子育て支援法に基づき、会計上の調査を行った結果を踏まえ、必要な行政処分を行ったものと考えております。

その結果、12月14日の法人の理事会で副理事長の辞任や副理事長が不当に支出させた費用の法人への返還などが話し合われたとしかあわせ子育て応援部から報告を受けております。

法人の決定については、コメントは差し控えさせていただきますが、今後も法人自らの正常化に向けた取組みを注視しながら、山形市、天童市と引き続き法人運営の適正化に向けて指導を行ってまいります。

ああいった色々なことがあったということは大変私も残念なことだなど、遺憾だなどい

うふうに思っておりましたけれども、やはり正常化に向けてですね、これから進むというような段取りになってきているように見ておりますので、そういうプラスの方向でのね、良い方向でのサポートと言いますか、何ができるか担当部でしっかり考えてもらいたいというふうに思っております。

記者

ありがとうございます。

記者

YTSの荒木と申します。よろしく申し上げます。

コロナ対応に関して1点、冒頭でもお話ありましたが、年末年始の感染対策というところで、これまで大型の休みの時にはですね、駅とかそういったところでの無料検査場ですとか、県のほうでも対策を進めてこられたと思います。

今回の年末年始に関して、県のほうでそういった対策を検討されているのか、合わせて、繰り返しになりますが、県民への感染対策というところの呼びかけをお願いします。

知事

はい。わかりました。

実はですね、年末年始における取組み内容については、明日23日に新型コロナの危機対策本部員会議を開催する予定であります。その場で協議・決定する予定としておりますので、明日の危機対策本部員会議、その会議場できちんと協議・決定し、皆様にお知らせしてまいりたいと考えております。

記者

ありがとうございます。

あと1点、幹事社としてお願いですが、冒頭の「やまがた紅王プレミアム」、ボードを用意していただいたのですが知事のお顔が隠れてしまったので、せっかくなのでお顔も見えるような形でお持ちいただいて。

知事

そうですか。横でいいですか。これでいいですか(補足:再度「やまがた紅王プレミアム」のパネルを掲げる)。

今日はさくらんぼのペンダントをしてまいりました。これは県民の皆さんが作ってくれたものです。

記者

ありがとうございます。

記者

今年最後ということですので、来年どのような年を知事は望まれるかというのを、展望と
いうかですね、そういうのをお聞かせいただければと思います。

知事

そうですね、まだ年末まで時間がありますので、まずそこまで大雪でありますとか、鳥インフルがまた起きなければいいなど。あと豚熱が大体クリスマス頃に発生しておりますので、そういった心配もあります。年末までやはり目の前のことにしっかりと、コロナ対応もですね、やっていきたいと思っています。

来年はやはり新型コロナウイルス感染症というものからね、県民の皆さん、経済界の皆さんが、解き放たれるようなそういう状況になってほしい、ウイルスも感染力が弱まってほしいと思っておりますし、できる限り、まったく以前の生活には戻らないと思っておりますけれども、変化に対応しながらの現在よりも、今のコロナ禍よりもですね、もっと自由にやはり歌ったり、活動したり、交流したりということができるようなそういう年になってほしいなというふうに思っています。